

第3回 オペラと声



○「声」の不思議

人間の「声」とは実に不思議なものです。地球上には何十億という人間が住んでいますが、全く同じ声を持っている人間がいるという話は聞いたことがありません。(人相については「世の中には同じ顔を持つ人間が3人いる」などとよく言われますが・

・・・)つまり、声というものは唯一無二の全く個性的なものであると言えるでしょう。

バロック時代のバイオリニストでありストラディバリと同時代人でもあったフランチェスコ・ジェルミニアニは、理想的なバイオリンの音色を追求することは「完璧な人間の声と張り合う」ことであると言ったそうです。これは、言い換えれば人間の「声」こそが究極の楽器であるということではないでしょうか。ベートーヴェンが彼の最後の交響曲で声楽を用いたのも、同じ思いがあったからかもしれません。

ということで、今回はオペラにおける「声」について特集してみたいと思います。

○オペラの役柄と声との関係

皆さんが普段よくご覧になるテレビドラマや映画、演劇などのキャスティングは、登場人物の性別や年齢、性格、容姿などの設定を基に決められます。もちろん俳優の演技力も重要な要素です。

オペラも演劇の一つですから、当然このような要素はキャスティングの基準の一つになります。しかし、オペラの場合、何といても一番重要なのは役者(歌手)の「声」です。なぜなら、オペラの作家(作曲家)は、登場人物の性格を「声」によって表現しているからです。有名なヴェルディの「椿姫」やプッチーニの「ラ・ボエーム」のヒロインは、どちらも最期には胸の病によって亡くなります。これまで世界中の歌劇場で数々の名歌手達がこの役を演じては喝采を浴びてきました。しかし、かつてはとても病で死が迫っているとは思えないほど健康的な(ふくよかな?)体型の歌手が演じることも多かったようです。たとえビジュアル的に合っていないなくても、声さえ素晴らしければオペラならOKだったのです。

今ではずいぶん事情が変わってきており、声はもちろんですが、ビジュアルも重視されるようになってきています。その理由は、世界がグローバル化してきたことや、映像技術の進歩に伴うVTRやDVDの世界的な普及によるところが大きかったと思われます。

かつては、オペラを楽しむ方法は歌劇場に行くか、レコードを聴くかしか方法がありませんでしたから、大多数の人はレコードによって音(声)のみを鑑賞していたわけです。

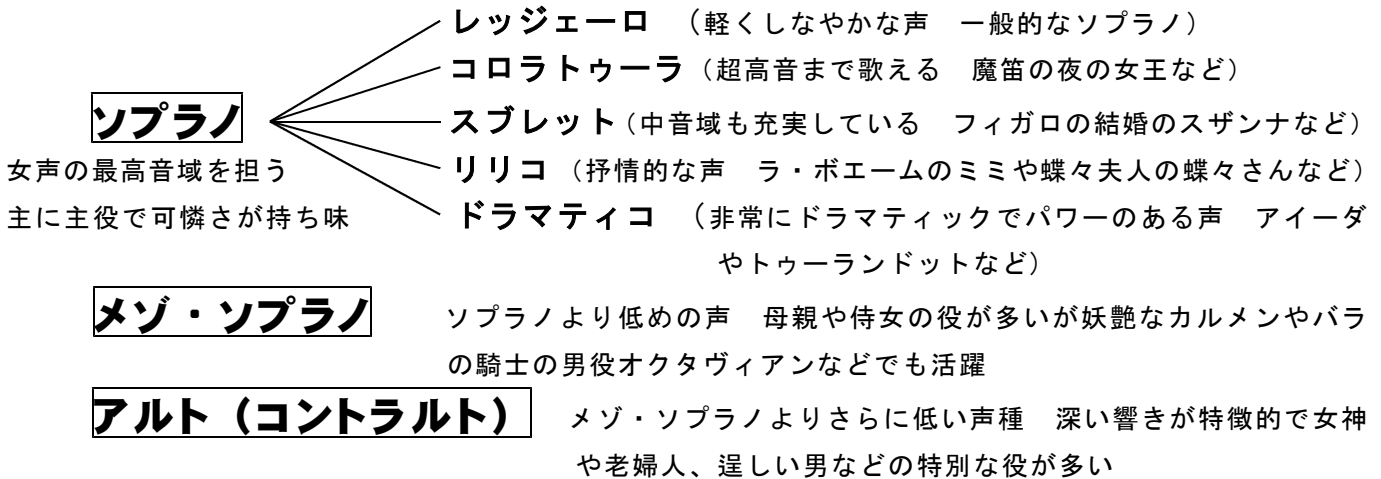
話が少し横道にそれましたので戻しましょう。

それでは、オペラでは、役柄と声はどう関係しているのでしょうか？

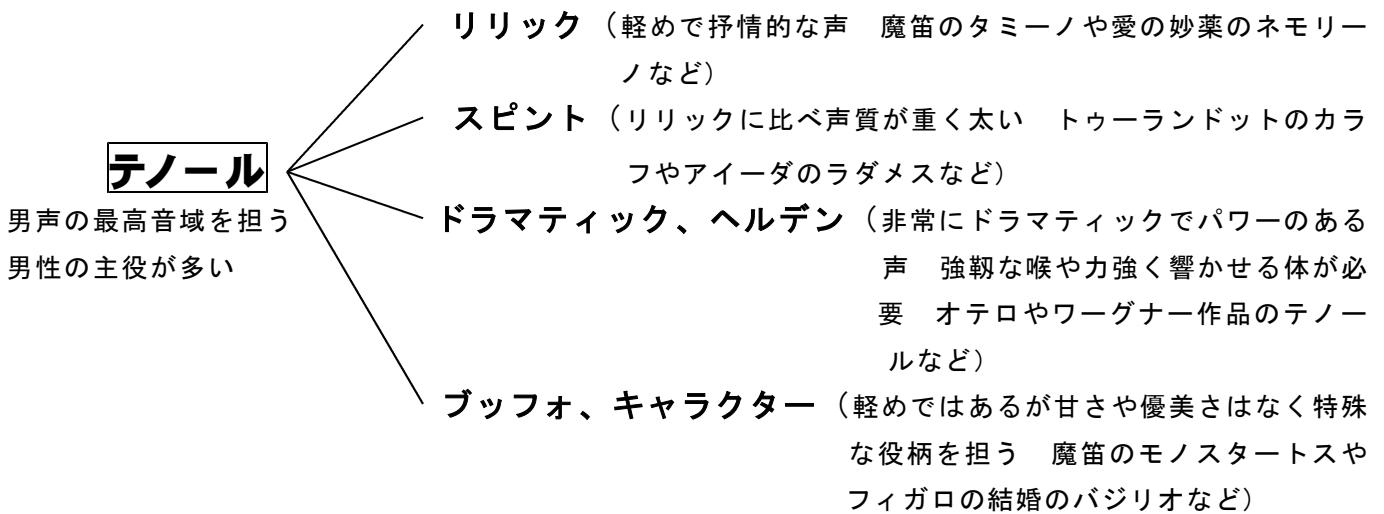
皆さんは小・中学校の音楽の時間に、声の種類を女声はソプラノ、メゾ・ソプラノ、アルト、男声はテノール、バリトン、バスというふうに習ったと思います。これは、声その高さ(声域)によって分類したのですが、実際には以下のように「声質」によってさらに細かく分類されているのです。そして、オペラの場合は声質によって役柄が指定されているのです。

声質による声の分類

○女声



○男声



※ この他にも特殊な例として、**ソプラニスタ** (変声せずに高い音域を保ったまま成長した男性の声) や**カウンターテナー** (変声期を過ぎた成人男性が裏声を駆使してソプラノに似た響きを出す) などがある

バリトン テノールより低めの声質 フィガロやドンジョバンニ、カルメンのエスカミーリョなど多彩な役を担う

バス 男声の最低音域を担当 太く深い響きで、神や老人のほか、荒々しい武将や落ち着いた僧侶など幅広い役柄を担う

このように、オペラ歌手は、自分の声質に合った役を歌っているわけです。声は生まれつきのものなので、例えばバスの声質の人がテノールの役を歌うのは無理なのです。

ところで、声質がこのように分類されていると言っても、それを言葉で説明するのは難しいものです。今は、CD (DVD) やネットなどで手軽に色々な歌手の演奏を聴くことができるので、ぜひ、聴き比べをしてみてください。それもまたオペラを楽しむ方法の一つだと思います。

文 : S. 0

《参考文献》

- ・岸 純信 著 「オペラのひみつ」 メイツ出版
- ・【オペラ入門】 オペラ歌手の声の種類とは? <https://pianistic-academy.com/>
- ・【オペラを楽しむ】 音楽に寄せて <https://kazuhisakurumada.com/opera-singer/heldentenor/>